

■今月の特選句

2013年6月号

悪知恵も磨きのかかり子どもの日

高田敏男

上品な季語「子どもの日」を、「悪知恵」で裏切って滑稽。「磨きのかかり」も、俗な表現。拙句に「カレー派と寿司派で揉める子どもの日」。

蠅打ちで一茶にそむきたる心地

横山喜三郎

一茶は「蠅を打った」後、慙愧の念にかられて「やれ打つな」を詠んだのだ。「蠅打ちでのちに一茶句をつくり」「平成の世に喜三郎また」。

うららかやもしもしだけで分かる仲

有吉堅二

仲の良い奴は、同じ時刻にかけてくるからベルが鳴っただけで分かる。「うららか」がいい。時により「もしもの筈が俺俺四月馬鹿」。

まんぼうの知る春愁の無重力

広瀬雅幸

素っ頓狂な顔で波に身を委ねる、無重力状態のマンボウには、悩みなど一つもない？ いや、ストレスの無いことが悩みなのだ。「定年で退職しての春愁」。

潤む目で見つめ合ひをり花粉症

金澤 健

花粉症で潤んだ目で見つめられ、勘違いして生まれた恋心。見つめられた方も目が潤む。「見つめ合ふ潤む目一人は花粉症」ということ。

時折は力抜きをり鯉幟

飯塚ひろし

「力を抜く」で擬人化。しかし、時折である。「大方は真面目に泳ぎ鯉幟」ですね。しかし、ズルイ奴は、「見上げられ泳いで見せる鯉幟」。

■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

花疲れ大風呂敷を広げられ

・・・聞き役となり花も眺めず

柳 紅生

上司ばかり緊張してた四月尽

・・・脳天気なる新社員たち

高橋きのこ

絡みあふ恋のかたちの鯉幟

・・・戀のかたちに纏れる絡む

笠 政人

歯の浮くは氷のせいかお世辞のせいか

・・・自家製のかき氷褒められ

上山美穂

行く春や捨て所なき汚染水

・・・七つの海を汚すまいぞよ

飛田正勝

侵犯の抗議も成らで黄沙降る

・・・もてない奴もふられつばなし

丸山紘一

腹の虫鳴かすテレビや初鯉

・・・この句の季語は虫にはあらず

田中早苗

左遷地にひらく駅弁春寒し

・・・駅弁をチンすれば麗か

小林英昭

父祖に享く怪しき家系図墓

・・・弓削道鏡の末裔だつたり

伊地知寛

腹見せて個人メドレーこいのぼり

・・・空のプールにゴールはあらず

白井道義

叶うなら顔もかえたい更衣

・・・医学の進歩もうすこし待て

有富洋二

霾るや大気には戸の立てられず

・・・人間を戸で囲ふしかない

麻生やよひ

葉桜となりても老樹ひと招く

・・・生身魂らも宴会好きで

奥脇弘久

■今月の滑稽句

	働けど美田は買えず四月馬鹿 老懶の人畜無害四月馬鹿	青木輝子 青木輝子
【佳作】	四月馬鹿女はマグマ蓄える	青木輝子
	そこだけが分けても明かし柿若葉 学舎は色転調の躑躅垣	青山桂一 青山桂一
【佳作】	跳石を右へ左へ燕子花	青山桂一
	雨風に溺れ乱れし花あはれ 車椅子も人も大・小花吹雪	秋月裕子 秋月裕子
【佳作】	しのぶれど踏まれ抜かれし春の草	秋月裕子
	知らぬ間に権威失墜落椿	麻生やよひ
【佳作】	睨まれれば睨み返すや新社員	麻生やよひ
	どうしようお顔に黴が生えてきた	足立淑子
【佳作】	蛞蝓に争う気などないのだが 梅雨じめり元カレ夢に今日も来る	足立淑子 足立淑子
【佳作】	芭蕉より選句さずかる大朝寝 重力に逆らい胡瓜ユーターン	有富 洋二 有富 洋二
	一寸法師の椀の中まで飛花落花	有吉堅二
【佳作】	春雨の片袖濡らすひとつ傘	有吉堅二
	呼ぶ声も宵は艶めくいちご売り	栗倉健二
【佳作】	カタツムリ角で天下を争わず ブランドの靴で踏み行くアリの家	栗倉健二 栗倉健二
	夏めくや半ば裸の乙女たち	飯塚ひろし
【佳作】	奥義など全くなけり冷奴	飯塚ひろし
	マイホーム建てて別れの燕かな	井口夏子
【佳作】	誉められて力を溜める牡丹かな 老ひてなお盛んな事よ根無し草	井口夏子 井口夏子
【佳作】	惚けかたも十人十色春景色 恍惚老の惚気話や惚け上手	池田亮二 池田亮二

- | | | |
|------|--|-------------------------|
| 【佳作】 | 美白捨て骨に染むるや薄暑光
汗ばみて剥がれる前の面直し
青林檎大口悔やむ酸味かな | 石川節子
石川節子
石川節子 |
| 【佳作】 | カーナビもスマホも持たず蟻の列
水無月の水あふれ出る原発炉 | 伊地知寛
伊地知寛 |
| 【佳作】 | 一頭と数える蝶の軽さかな
団子より酒より金より花が好き
根性でビール飲んでる花の冷 | 伊藤浩睦
伊藤浩睦
伊藤浩睦 |
| | 日永かなすこし遅れて五時退社
噴水や鳩のあとには誰も来ず | 稲沢進一
稲沢進一 |
| 【佳作】 | お早ようと言へばおはよう山笑ふ | 稲沢進一 |
| | 連れて来し彼女美人や雛葶
汚染され雲隠れする春の富士
はびこれる根に力あり草を抜く | 井野ひろみ
井野ひろみ
井野ひろみ |
| | 春愁や自慢とグチの渦の中
滑稽の魅力にはまる老いの春
春寒し小言幸兵衛今何処 | 入江澄泉
入江澄泉
入江澄泉 |
| 【佳作】 | 麦の穂の上の白雲パンになる
花びらの舞ひてふてふとなりけり | 上山美穂
上山美穂 |
| 【佳作】 | 鴉来て茅の輪を先にくぐりけり
本堂の裏に落書さみだるる
子子を沈めて戦野の水を呑む | 氏家頼一
氏家頼一
氏家頼一 |
| 【佳作】 | 桜餅ありますピアノ教へます
幸せと思へば気楽豆の花
マネキンの担がれてゆく更衣 | 越前春生
越前春生
越前春生 |
| 【佳作】 | 動物園の産屋にやさし春灯
貴婦人の影絵となりし日傘かな
隠沼に墓バリトンのコンサート | 大関のどか
大関のどか
大関のどか |
| 【佳作】 | 桜蕊栄誉称へて降りしきる
滝ざくら五月の雪を甘受せり | 奥脇弘久
奥脇弘久 |
| | 万愚節鴉に阿呆と嗤はれし | 笠 政人 |

- 【佳作】 永らくて肩身のすぼる更衣 笠 政人
- 浜風のカフェを吹き抜け夏めけり 加藤澄子
なんじやもんじやの小花は白し花の森 加藤澄子
- 【佳作】 釈迦曰く今年の甘茶は冷たいのう 加藤澄子
- 【佳作】 楽聖に補聴器あらば亀鳴けり 加藤 賢
血糖値のことなど言ふな初鯉 加藤 賢
薬ならもの知りのみで冷し酒 加藤 賢
- 春の宵窓辺の夫婦五十年 門屋 定
- 【佳作】 鶯や雨音消してホーホケキョ 門屋 定
いぬふぐり野草の中に強く生え 門屋 定
- 葉桜となりたる安堵人も木も 金澤 健
三桎の花のじゃんけん果てのなし 金澤 健
- 薫風や老人迷子の尋ね人 川島智子
巣を掘られ蟻には地震阿鼻叫喚 川島智子
- 【佳作】 墓石をほむらで飾る緋のつつじ 川島智子
- 釣人の結跏半眼風光る 菅野あたる
渋滞を耐へて憲法記念の日 菅野あたる
- 【佳作】 夏来ると浮足立ちし下り坂 菅野あたる
- 佐保姫の腕に抱かれて夢うつつ 久我正明
- 【佳作】 河馬の顎外れるほどに桜満つ 久我正明
月星にきつと咲かない桜かな 久我正明
- 坂道を転がり落ちる花の屑 工藤泰子
玉手箱パンドラの箱三鬼の忌 工藤泰子
- 【佳作】 燕来る佐々木小次郎像の上 工藤泰子
- 【佳作】 花宴終へて蝶々に誘われし 黒田忠一
明け易し歩き過ぎたるベルが鳴る 黒田忠一
- 【佳作】 犬の餌を少し味見の春の昼 小泉花子
春暁や三時寝るとき起きるとき 小泉花子
木蓮のまことパカンと咲きにけり 小泉花子
- 【佳作】 春雨や好都合なる傘ひとつ 小林英昭
唐揚にして食べました啄木忌 小林英昭

- | | | |
|------|--|-------------------------|
| | もういいか景気回復まあだだよ
うれしいなしあわせだなあなのしいな | 齋藤八兵衛
齋藤八兵衛
齋藤八兵衛 |
| 【佳作】 | 紳士服脱ぐとほんとの爺になる | |
| | 入学に親子三代出席す
女性にも罪あり夏の更衣
肝心なところ隠して更衣 | 酒井鹿洋
酒井鹿洋
酒井鹿洋 |
| 【佳作】 | ウォーキングつぼみ桜のウインクよ
こいのぼり上で泳げぬ末ぼうや
野ブキ摘む頬被り恰好恥ずかし | 佐藤義子
佐藤義子
佐藤義子 |
| 【佳作】 | 植木市蜜柑きんかんデコボン柑
八重桜花嫁狐もおめでた頃
地下水の百年井戸や胡飲酒(こんじゅ)舞ふ | 佐野萬里子
佐野萬里子
佐野萬里子 |
| | カラスの子羯諦羯諦餌ねだり
オイ！コラ！の前篇灰色昭和の日 | 柴田止揚
柴田止揚
柴田止揚 |
| 【佳作】 | 浮く春を浪曲一節長科白 | |
| | 家に棲む侮りがたきさいたづま
二の足を踏まず遁走大百足
薔薇の辺に虚飾おびたる顔ばかり | 下嶋四万歩
下嶋四万歩
下嶋四万歩 |
| 【佳作】 | 入学子の背に載し掛かるランドセル
擲揄されし猫の額に植ふる茄子
巢造りす正装燕尾のつばくらめ | 壽命秀次
壽命秀次
壽命秀次 |
| | 地下鉄の立体交差山笑ふ
今日からは年金暮らし大朝寝 | 白井道義
白井道義 |
| 【佳作】 | 神様に頼まれて咲いたかアマリリス
豆ごはんの豆粒は胃薬の色
求めるもの有って伸びて揺れて新緑 | 鈴木和枝
鈴木和枝
鈴木和枝 |
| | 風光りノートに貯めて選びます
春愁ひ目に映る本屋さん
Yシャツとベスト一枚茶摘して | 鈴木哲也
鈴木哲也
鈴木哲也 |
| 【佳作】 | 苦戦なり汗ダクダクと俳句詠む
手造りはそんなに貴重子宝は | 泰田成人
泰田成人 |

	残り火や家庭の外でボヤ騒ぎ	泰田成人
【佳作】	売れ残りますます怖く武者人形 網タイツ足を伸ばせば水中花	高田敏男 高田敏男
	春毎に同じ花の名訊ねけり	高橋きのこ
【佳作】	踊子草姿のままに踏まれけり	高橋きのこ
	イチゴパフェお一人さまの誕生日	高橋マキコ
【佳作】	ウーロン茶ロックで酔ひし花見かな ハローキティ大人買いす春うらら	高橋マキコ 高橋マキコ
	木に逃れ茶に脱ぎかへる雨蛙 その足を残してゴキブリホイと去る	高橋素子 高橋素子
【佳作】	花は葉に白髪は冥土の使ひなり	高橋素子
【佳作】	城山は楠から笑ひはじめけり 葱坊主あすの天気は占へぬ つばくらめ改札口はフリーパス	田所國威 田所國威 田所國威
【佳作】	伊賀の里忍者に会えず山笑ふ 罫りの知らせに目覚む朝のあり 山笑ふ緑の鯨飛びにけり	田中章子 田中章子 田中章子
	春の日や入院を余儀なくされる 春の日や絶食中のつらさなる	田中 勇 田中 勇
【佳作】	ひとはなぜさくらははなにひかれるや	田中 勇
【佳作】	告知受け決別ビール乾しにけり 隠田やくぐもり鳴ける蛙どち	田中早苗 田中早苗
	猫の子の父親いまだ不明なり 甘茶仏糖尿病を心配す	田村米生 田村米生
【佳作】	すそわけの竹の子たらひまはしされ	田村米生
	子供の日父母とじじばば子一人 風薫る広告を見て旅気分	津田このみ 津田このみ
【佳作】	山笑う下りの坂道ひざ笑う	津田このみ
【佳作】	甚平が幸兵衛となる小言かな 7号車7番E席山笑う 脳の皺伸ばして春の眠りかな	都吐夢 都吐夢 都吐夢

- | | | |
|------|---|----------------------|
| 【佳作】 | 山笑ふ紳士淑女の外廁
桜鯛白磁の皿にはにかめり | 飛田正勝
飛田正勝 |
| 【佳作】 | 亀の子の親は寿命の万年目
黴の字をこまかく散し(ぼらし)黴拭ふ
梅雨晴間ひと息入れる茶を淹れて | 永島董玉
永島董玉
永島董玉 |
| | 犬ふぐり犬のふぐりが鎮座する
母の日の拗ねて親父の午前様 | 西をさむ
西をさむ |
| 【佳作】 | ぱみゅぱみゅと原宿少女更衣 | 西をさむ |
| | 潮干狩り貝より人の多かりし | 花岡直樹 |
| 【佳作】 | タンポポの色でひともめ白か黄か
竹馬の足棒になる子供の日 | 花岡直樹
花岡直樹
花岡直樹 |
| 【佳作】 | 柏餅消費期限の日なりけり
若葉風だ～るまさんがこ～ろんだ
月見草こんやは猫の会議の日 | 原田 曄
原田 曄
原田 曄 |
| 【佳作】 | 春風や靴下履こうか履くまいか
我が文章獺の餌にせむ朧月
青鷺の群に囲まれ潮干狩り | ひがし愛
ひがし愛
ひがし愛 |
| 【佳作】 | 羊水の記憶に戻るミニプール
蛸干され千円札の貌となり
号砲一発仏の前の花粉症 | 久松久子
久松久子
久松久子 |
| | こどもの日かつて端午の節句なる | 日根野聖子 |
| 【佳作】 | 母のために咲くにはあらずカーネーション
見上げれば透かし模様の若楓 | 日根野聖子
日根野聖子 |
| | つばくらめ先づ仏壇を窺ひぬ | 広瀬雅幸 |
| 【佳作】 | 懊悩もまた大らかや鯉のぼり | 広瀬雅幸 |
| | ごきぶりや律儀女の殺虫剤
藁苦虫顔の一茶の目 | 藤岡蒼樹
藤岡蒼樹 |
| 【佳作】 | 墓口に雑魚寝硬貨や明易し | 藤岡蒼樹 |
| | 風薫る跳べぬバンジージャンプかな
春愁や元気な人は嫌ひです | 藤森荘吉
藤森荘吉 |
| 【佳作】 | 春なのに秋の心と書く愁ひ | 藤森荘吉 |

- 【佳作】 青麦の風の足跡揺れみたる
水玉に花を映して春の雨
花水木満開明日も晴れるかと
藤原セツ子
藤原セツ子
藤原セツ子
- アカシアやローマに続くハイウェイ
くまがい草主無き庭に凜と咲き
【佳作】 お日様の光大好きさくらんぼ
松井寿子
松井寿子
松井寿子
- ホステスにホスト手を貸す業平忌
母の日についでに祝ふ父の日も
【佳作】 子子や親はとつくに藪の中
松尾軍治
松尾軍治
松尾軍治
- 【佳作】 侵犯の抗議も成らで黄沙降る
意地で咲く伐採近き姥桜
隠れ場所鬼に指示さる新入生
丸山紘一
丸山紘一
丸山紘一
- つき指の小指にからむ蜘蛛の糸
【佳作】 大空に煙突消えて閑古鳥
救ふべき道はあるのか水着出す
三塚不二
三塚不二
三塚不二
- 【佳作】 さらふごと子を担ぎいる潮干狩り
ゴールデンウィーク静かがいいと言ひ聞かし
惨敗や孫たかくたかく花に抱く
三橋百笑
三橋百笑
三橋百笑
- 仏心のいと心地佳し詣で汗
石垣に梵字仏顔夏あざみ
【佳作】 いろ比べ花陰に食ぶさくら餅
宮森 輝
宮森 輝
宮森 輝
- 【佳作】 席順はいつもしんがり昭和の日
暗黙のルールを得たり花は実に
油虫ここで会ふたが百年目
百千草
百千草
百千草
- 【佳作】 苦にならず句にも成らずの夏シャツ
お遍路のスマホ短パンスニーカー
ポケットの穴に切られる夏の空
森岡香代子
森岡香代子
森岡香代子
- 退屈でうつらうつらにボケの花
老いらくの恋が実れとひがん花
【佳作】 目や手より足もて探る竹の旬
森 要
森 要
森 要
- 樹々すでに緑蔭作り朝八時
八木 健

- | | | |
|------|---|-------------------------|
| 【佳作】 | 真夏日と予報の文字の真赤赤
まつ先に半袖となり小学生 | 八木 健
八木 健 |
| 【佳作】 | 蚊の狙ふ標的なるや酔漢は
難読に難義もありき蠓蠓(まくなぎ)ぞ
昼寝人テレビ点けをりうらうらら | 八洲忙閑
八洲忙閑
八洲忙閑 |
| 【佳作】 | ビル街の山紫水明しゃぼん玉
新社員おのれのあくび噛み殺す | 柳 紅生
柳 紅生 |
| 【佳作】 | いぬふぐり小さな宇宙咲かせぬ
ケンビ鏡つくしの胞子ダンスかな | 柳澤京子
柳澤京子 |
| 【佳作】 | 老ひてなほ白業成就うば桜
手をかけし人ありて我花を愛づ
御宝は我子の授けし花塵なり | 山下正純
山下正純
山下正純 |
| 【佳作】 | その背に花びら飾り大真鯉
鯉のぼり八十路の瞳輝かす
恋の鹿鳴かせてをりぬ国有林 | 山本けい子
山本けい子
山本けい子 |
| 【佳作】 | いつも驚き雨蛙との出合ひは
チューリップ咲かない波紋観光地
何かくださるなら芍薬の蕾を | 山本 賜
山本 賜
山本 賜 |
| 【佳作】 | 海の家眠ったふりのサングラス
腕白のバロメーターや草虱 | 横山喜三郎
横山喜三郎 |
| 【佳作】 | 花の香に盲のひとも頬ゆるみ
宛もなく知らぬ町訪う花みづき
狂言の野太き声や緑立つ | 渡辺さだを
渡辺さだを
渡辺さだを |